

科目名	健康科学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	上田 真寿美、田坂 克子	関連する資格	高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

本授業は対面授業とする。
 本講義では、健康の定義を明らかにし、生涯を通して健康なライフスタイルを確立するための方法を考えさせる。本講義では、食および運動と生活習慣病との関連を中心に取り上げる。食と健康の関係を、栄養学および食品学の観点から考察して食生活の重要性を理解させる。また、健康の維持・増進における運動の重要性を運動生理学の観点から概説し、運動と栄養との係わりおよび有効な運動の実践方法を理解させる。

(上田 真寿美/8回)

現代生活における健康と運動の重要性について概説し、各ライフステージにおける健康維持のための運動やスポーツに触れる。

(田坂 克子/7回)

健康づくりと食生活について概説し、生活習慣病予防に重要な食生活改善の取り組みや食の安全性について触れる。

到達目標

A4101

具体的に以下の観点から到達目標を設定している。

【知識・理解の観点】

1. 現代社会における健康問題について説明できる。 2. 現代生活における健康と栄養・運動の意味について説明できる。 3. 生活習慣病の予防や医療費の増大への栄養・運動の寄与について説明できる。 4. 栄養・運動と心身の関連について説明できる。 5. 健康な生活を送るための具体的な栄養・運動の実践方法について説明できる。

【思考・判断の観点】

1. 授業で取り上げた各領域について、自分の意見を論理的に述べるができる。

【関心・意欲・態度の観点】

1. 健康、栄養・運動への関心を広げ、問題意識を高めて、自らその解決方法を探ろうとすることができる。 2. 日常生活の中で健康問題や栄養・運動について主体的に考えることができる。

【技能・表現の観点】

1. 現在および将来にわたり、健康保持増進のための方策を立て実践することができる。

成績評価方法

授業態度、レポート及び試験等により総合的に評価する。

具体的には以下とする。

1. 授業内で発表、レポートを数回行う。
 2. 関心のある健康問題に関するレポートを宿題として課す。
 3. 最終試験を実施する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、我々を取り巻く健康問題（担当：上田真寿美） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
2) 現代生活における健康と運動 - これからの健康づくりと運動（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
3) 現代生活における健康と運動 - 疾病予防のための運動とは（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
4) 現代生活における健康と運動 - 運動不足と健康障害（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	グループワーク
5) 運動と身体健康 - ヒトの発育・発達 ヒトにおける形態や機能の変化（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
6) 運動と身体健康 - 乳児～青少年の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
7) 運動と身体健康 - 成人～高齢者の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
8) 運動と身体健康 - 女性の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 中間総括（特に運動と健康領域） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	小テスト
9) 健康づくりと食生活（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
10) 食生活の変遷と栄養の問題点（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
11) 生活習慣病の予防(1)（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
12) 生活習慣病の予防(2)（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	グループワーク
13) 食生活改善への施策（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
14) 食の安全性と表示（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	小テスト
15) 総括（担当：田坂克子） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
授業外学習	
当該授業の前週に、次週の授業の資料配布と参考文献を提示する。それについて予習を行い授業に参加すること。授業内容について毎回まとめておく。それらを参考に課題レポート（授業内・宿題）を作成し提出する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用せず、適宜、書き込み式資料を毎回配布する。	

課題に対するフィードバック

提出された課題レポートについては翌週コメントを付けて返す。

備考

科目名	現代教養研究（総合研究A）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

教養履修学生を対象として、歴史や文化、健康と生活あるいは環境と生活に関する専門的な文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。

到達目標

A4102

授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							50	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション							20	
グループワーク							10	
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること	個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
12) レポート作成指導	個人ワーク プレゼンテーション
13) レポート作成指導	個人ワーク プレゼンテーション
14) レポート作成指導	個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
授業内で紹介する。	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

備考

市民公開講座として開講する可能性がある
今年度は開講しない

科目名	現代教養研究（総合研究B）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

教養履修学生のみを対象として、歴史や文化、健康と生活あるいは環境と生活に関する専門的な文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。（一般学生は受講できません）

到達目標

A4103

授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること	個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表	グループワーク プレゼンテーション
12) レポート作成指導	個人ワーク プレゼンテーション
13) レポート作成指導	個人ワーク プレゼンテーション
14) レポート作成指導	個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
授業内で紹介する。	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

備考

履修条件：現代教養研究の ~ のうち3科目以上と を履修済みであること

科目名	福祉住環境論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	福祉住環境コーディネーター2級	

授業概要

高齢者や障害者の住生活をサポートしていくためには、住環境に関する理解が不可欠である。本講義では、東京商工会議所が主催する福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格を目的として、建築や福祉用具といった住環境整備に関する事項についての共通理解を形成した上で、住宅改修や福祉のまちづくりの手法や考え方について、毎回の問題演習を通じて習得することをねらいとする。

到達目標

A4201
7月に実施予定の福祉住環境コーディネーター検定試験2級に合格する。
万一合格できなかった場合は、再履修登録の上、11月の試験にチャレンジすること。

成績評価方法

福祉住環境コーディネーター検定試験2級の得点を中心に評価する。
2019年以降の検定試験2級合格者は、合格証と成績表の原本と提示し、それらのコピーを提出することで単位認定を受けることができる。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							80	
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							20	
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
2) 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
3) 障害のとらえ方と自立支援のあり方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
4) 障害のとらえ方と自立支援のあり方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
5) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
6) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
7) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
8) 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
9) 福祉住環境整備の共通基本技術 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
10) 福祉住環境整備の共通基本技術 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
11) 生活行為別福祉住環境整備の手法 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
12) 生活行為別福祉住環境整備の手法 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
13) 在宅生活における福祉用具の活用 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
14) 在宅生活における福祉用具の活用 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
15) 総括・検定試験対策 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（120分）	個人ワーク
授業外学習	
毎回、事前にテキストの該当ページを読んでおくこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 東京商工会議所編『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂6版』、2022年、東京商工会議所 参考書としては「福祉住環境コーディネーター」に関連する書籍を講義内で適宜紹介する</p>	<p>人体の構造と機能及び疾病 ・ 、社会保障論 ・ 、高齢者福祉論 ・ 、障害者福祉論 ・ 、介護概論</p>

課題に対するフィードバック

質問は個別に対応する

備考

前期の開講期間は4月～7月（COVID-19の感染拡大状況によっては開講しない場合もある）
授業時間は18：30～20：40
後期は再履修登録のみ受け付ける
家庭の事情等で夜間に受講できない者は、個別に課題を出して指導するので事前に相談に来ること
【重要な変更点】2021年度より2級検定試験はIBT（インターネットでの試験）に変更されたので、受験するためには本人確認のためwebカメラとマイク・スピーカーの付いたパソコンが必要となります。

科目名	医療福祉実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	4年	後期			
担当者名	未定		関連する資格				
授業概要 医療ソーシャルワーク分野の実習として、一般総合病院・リハビリテーション病院などの現場における利用者や実習指導者との関わりのなかで、医療ソーシャルワーカーとしての視点や価値、ソーシャルワークについて学習することを目的としている。							
到達目標 A4401m ・医療ソーシャルワーカーとしての視点や価値を理解する。 ・医療現場におけるソーシャルワークを理解する。 ・医療ソーシャルワーカーの全体像を理解する。			成績評価方法 レポート及び演習、医療福祉実習の評価などで総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							90

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
授業外学習	
<p>実習事前の準備として、医療機関における利用者、病のプロセスとソーシャルワーカーの役割、医療機関の現場について学習しておいてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜、指示する。	医療ソーシャルワーク論、 社会福祉士国家試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開							
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	選択	2	4年	前期				
担当者名	山本 悟		関連する資格	精神保健福祉士受験資格				
授業概要 本講義は、リハビリテーションの技法（SST、家族教育プログラム等）やリハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割と関連専門職との連携について学び、実践上の必要事項をより明確なものとし、臨床実地に役立てることを目標とする。特に、精神科リハビリテーションが医療機関・施設・地域で展開されている中で、病院での作業療法実践と地域での精神保健福祉士としての実務経験を基に、精神保健福祉士に求められる役割や視点について学ぶ。								
到達目標 A4402d ・精神保健福祉士の現場に対する認識と理解を深め、精神保健福祉士ないし関連職に就職する場合の実際的な諸問題から研修する。 ・精神障害者が地域で安定した生活が送れるよう、役立つすべての関連知識を吸収する。			成績評価方法 対面授業を行う場合は出席状況及び定期試験にて成績評価する。新型コロナウイルスの状況次第ではリモートでの授業を行う。その際はレポート提出にて出席とし、レポート内容及び提出状況、試験の操					
評価項目	評価基準							
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)	
定期試験(中間・期末)							50	
小テスト、授業内レポート							50	
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ．医療機関におけるリハビリテーション (1) 作業療法及びレクリエーション療法	実習、グループワーク若しくは課題
2) (2) 集団精神療法 【復習】本を読み返す（30分）	課題
3) (3) 行動療法 【復習】本を読み返す（30分）	課題
4) (4) 認知行動療法と社会技能訓練 【復習】本を読み返す（30分）	実習、グループワーク若しくは課題
5) (5) 家族教育プログラム 【復習】本を読み返す（30分）	ディスカッション若しくは課題
6) (6) デイケア及びナイトケア 【復習】本を読み返す（30分）	グループワーク若しくは課題
7) (7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護 【復習】本を読み返す（30分）	ディスカッション若しくは課題
8) (8) 退院・地域移行支援	ディスカッション若しくは課題
9) ．精神保健福祉士が行うリハビリテーション (1) 集団精神療法、SST、デイケア・ナイトケア、訪問看護、リワーク支援 【復習】本を読み返す（30分）	ディスカッション若しくは課題
10) (2) 地域ネットワーク、ケアマネジメント、自助グループ、家族会、ボランティア養成	ディスカッション若しくは課題
11) ．精神科リハビリテーションの統合化 (1) 地域リハビリテーション 【復習】本を読み返す（30分）	ディスカッション若しくは課題
12) (2) 職業リハビリテーション 【復習】本を読み返す（30分）	グループワーク若しくは課題
13) ．精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション (1) 精神保健福祉法、障害者基本法 【復習】本を読み返す（30分）	ディスカッション若しくは課題
14) (2) 障害者プラン、障害者総合支援法 【復習】本を読み返す（30分）	ディスカッション若しくは課題
15) まとめ	課題
授業外学習	
授業では、実践的な話が多いので、より詳しく知識を学ぶために復習が必要となる。また、課題を課すことにより更なる学びを得ることが大切となる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規	精神保健福祉の理論と相談援助の展開・・・ 精神保健福祉援助実習指導・・・ 精神保健福祉援助実習・・・

課題に対するフィードバック

リモート授業の場合は、レポートを提出した時は必ずコメントを付けて返す。

備考

新型コロナウイルスの状況次第ではリモート授業を行う。その場合はレポート提出にて出席とする。レポート内容により評価し、提出ない場合は減点とする。

科目名	精神保健福祉援助演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	4年	前期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 精神保健福祉士として精神障害者に対し適切な支援を行うために、配属実習（障害福祉サービス事業所等）での体験を振り返り、自らの課題を明らかにするとともに、支援に欠かせないアセスメントスキルを中心に、専門的かつ実践的な援助技術を習得する。 精神科ソーシャルワーカー、社会福祉士の実務経験をもとに、実践的な能力の習得をめざし演習を行う。							
到達目標 A4403d ・配属実習先での体験を振り返り、援助関係の形成過程、アセスメントや個別支援計画の作成過程について自らの課題を説明できる。 ・精神障害者の生活のしづらさを具体的に説明できる。 ・次回実習にむけて必要となる個別援助技術、集団援助技術を習得する。			成績評価方法 各回の内容理解度やグループワークへの参加度によって評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実習 の振り返り - 援助関係の形成過程・当事者の生活のしづらさなど 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	グループワーク
2) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
3) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
4) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
5) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
6) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
7) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（60分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
8) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
9) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
10) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
11) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
12) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
13) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
14) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
15) グループにおける相談援助の理解 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
授業外学習	
予習は、教員が指示するテキストの該当ページあるいは資料を呼んでおくこと。 復習は、教員が示した課題について翌週の授業で発表できるよう準備をしておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規 大谷京子・田中和彦著『失敗ポイントから学ぶ P S W のソーシャルワークアセスメントスキル』中央法規	相談援助総論 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉援助実習指導 ・ 精神保健福祉援助実習 ・

課題に対するフィードバック

授業で示した課題については、翌週の授業で発表することとし、それに対し担当教員がコメントする。

備考

科目名	精神保健福祉援助演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	4年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

精神保健福祉士として精神障害者に対し適切な支援を行うために、様々な支援課題について事例研究を通じて、配属実習での体験や関連科目の学びとも関連づけながら、専門的かつ実践的な援助技術を習得する。

精神科ソーシャルワーカー、社会福祉士としての実務経験をもとに、実践的な能力の向上をめざした演習を行う。

到達目標

A4406d

- ・事例研究を通じてさまざまな支援課題を理解するとともに、専門的な相談援助技術を実践できるようになる。
- ・実習での個別的な体験を一般化し実践的な知識・技術として習得する。

成績評価方法

各回の内容理解度、グループワークへの参加度、によって総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度	○			○			50
プレゼンテーション							
グループワーク		○					50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を振り返り、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）		ディスカッション
2) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を振り返り、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）		
3) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		
4) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		
5) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
6) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
7) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
8) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
9) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
10) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
11) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
12) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
13) 支援課題別の相談援助の理解 - 事例研究 - 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究のポイントを整理し、レポートを作成する（30分）		グループワーク レポート
14) まとめ : 実習での体験と事例研究から学んだ専門的知識・技術 【予習】実習での体験や事例研究を振り返る（30分） 【復習】演習での学習体験をSW技術と関連づけ、レポートを作成する（60分）		グループワーク レポート
15) まとめ : 実習での体験と事例研究から学んだ専門的知識・技術 【予習】実習での体験や事例研究を振り返る（30分） 【復習】演習での学習体験をSW技術と関連づけ、レポートを作成する（60分）		グループワーク プレゼンテーション
授業外学習		
事例研究の内容を整理するというレポートでは、グループワークの中で話題となったことを列挙するとともに、気づきや疑問点を記述すること。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規	相談援助総論 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉援助実習指導 精神保健福祉援助実習	

課題に対するフィードバック

レポートについては、翌週授業の冒頭で確認し、担当教員がコメントを加え、受講生全員で共有する。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習指導						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	1	4年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 本授業は、配属実習の「事後指導」として実施するものであり、実習で体験したことを実践的な援助技術として体得するために、達成できたこと、課題として残ったことを明らかにしていくとともに、講義科目や演習科目の学習内容と関連づけながら専門的援助技術として体系立てて理解する。 精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習の事後指導を行う。							
到達目標 A4405d ・精神障害者の生活上の困難や多職種連携について説明できる。 ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理などについて気づくことができる。 ・精神保健福祉援助に係る知識・技術について配属実習での体験と関連づけ、具体的に説明できる。			成績評価方法 授業参加度と内容理解度の総合評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							40
プレゼンテーション							30
グループワーク							30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>この授業は基本的に対面授業で行うが、内容によっては遠隔授業にすることもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の振り返り（援助関係の形成過程についての自己評価） 2) 実習の振り返り（相談援助の実践についての自己評価） 3) 実習の振り返り（相談援助の実践についての自己評価） 4) 実習の振り返り（精神保健福祉士の職務理解についての自己評価） 5) 実習の振り返り（チームアプローチ、他機関連携の理解についての自己評価） 6) 実習の振り返り（実習課題達成度についての自己評価） 7) 実習の振り返り（課題として残ったことの確認） 8) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 9) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 10) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 11) 報告会準備（報告会リハーサル） 12) 実習報告会 13) 実習報告書の作成 14) 実習報告書の作成 15) 実習報告書の作成 <p>【予習】次回授業の課題についてレポートを作成する（60分）</p> <p>【復習】授業中指摘されたことを踏まえレポートを修正する（30分）</p>	<p>グループワーク プレゼンテーション レポート</p>
授業外学習	
<p>実習中に作成した実習日誌や実習指導者の助言をレポートに反映させるべく読み込んでおくこと。 その一方で、精神保健福祉士としての基礎的な知識や技術を復習すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習 ・ ・</p>

課題に対するフィードバック

授業の中で、適宜口頭によりフィードバックする。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	4年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 精神保健福祉援助実習では、精神保健福祉士としての自覚や職業倫理、専門的知識と技術を体得するために、実習先の実習指導者による指導を受けながら、精神科病院および障害福祉サービス事業所等において210時間以上の実習を行う。 実習では、精神科病院で「12日間90時間以上」の実習を行い、入院治療中の患者と援助関係を構築しながら病状や生活上の課題の理解を深めるとともに、地域移行のための支援方法、精神科病院の精神保健福祉士と地域の関係機関等との連携についてその具体的な内容を理解する。 精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習指導者と連携をとりながら実習を進める。							
到達目標 A4406d ・精神科病院に入院している患者の状態を理解し、生活上の課題を把握する。 ・精神科病院における精神保健福祉士の役割を理解する。 ・精神科病院における精神保健福祉士として必要な資質、能力、技術（援助関係形成力、アセスメント力、支援計画作成力など）を習得する。 ・病院内他職種の業務を理解するとともに、地域生活支援にかかわる関係機関との連携の具体的な内容を理解する。			成績評価方法 授業理解度、授業参加度、目標達成度の総合評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度	○						50
プレゼンテーション							
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>本学が指定する精神科病院において、12日間90時間以上の実習を行い、次に掲げる事項をできる限り経験し、指導を受けるものとする。</p> <p>入院患者や病院スタッフとの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>入院患者との援助関係の形成</p> <p>入院患者の理解とその生活ニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>入院患者の権利擁護及び支援（エンパワメント含む。）とその評価</p> <p>精神科病院内外における多職種連携、チームアプローチの実際</p> <p>精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>精神科病院のサービスの管理や職員の就業などに関する規定への理解</p> <p>当該精神科病院が地域社会の中の社会資源であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>精神科病院での実習ができない場合、次のような内容の演習を学内で行う。</p> <p>DVDを用いたシュミレーション学習 入院生活を描いた教材を用いて、精神症状や行動を理解し支援方法について学ぶ。</p> <p>卒業生の実習日誌を用いたシュミレーション学習 実習時に遭遇するさまざまな問題について理解を深める。</p> <p>実習指導者を招聘しての演習 精神保健福祉士として求められる資質・姿勢、専門的な援助技術を理解する。</p> <p>学内教員による演習 看護学科教員及び心理学科教員により他職種の業務を理解するとともに、連携の実際を学ぶ。</p> <p>テキスト等に掲載されている事例を用いた事例研究 地域移行・地域生活支援に向けた精神保健福祉士としての視点を身につける。</p> <p>【予習】実習計画書の作成。事前に配布する資料を読んでおく。（60分）</p> <p>【復習】各回の学習内容をレポート（A4で1枚程度）にまとめる。（60分）</p>	<p>グループワーク</p>
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：精神保健福祉援助実習の手引き（担当教員作成） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習指導 ・</p>

課題に対するフィードバック

作成したレポートについては、次回の授業の際に発表してもらい、担当教員が口頭でコメントする。

備考

科目名	司法・犯罪心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	4年	前期			
担当者名	小川 昭		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 犯罪の発生メカニズム、犯罪の影響と解決のための手法、加害者の処遇などについて最近の動向をふまえつつ概観し、加害者と被害者の支援のあり方について理解する。 刑事施設における処遇経験をもとに犯罪の加害者に対する理解と改善更生への処遇について、犯罪被害者支援センターでの経験をもちに犯罪被害者への支援について、スクールカウンセラーの相談と民間のDV被害者支援センターとの関りから虐待・家事事件への対応について授業を行う。							
到達目標 A4407ab 1. 犯罪に係る基礎的知識が説明できる。 2. 加害者や被害者を支える支援と制度が説明できる。 3. 習得した知識をふまえて、具体的な犯罪事例について、自分なりの支援が実施できる。			成績評価方法 定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 犯罪心理学とは何か(犯罪心理学の対象) 【予習】犯罪心理学について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	授業内レポート
2) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 生物学的原因論 【予習】犯罪に至る生理的要因について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
3) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 心理学的原因論 【予習】犯罪に至る心理的要因について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
4) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 社会的要因論 【予習】犯罪に至る社会的要因について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
5) 犯罪理解のための理論と実際 暴力犯罪、拡大自殺 【予習】殺人等の暴力事件について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
6) 犯罪理解のための理論と実際 性犯罪、ストーキング 【予習】性犯罪について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
7) 犯罪理解のための理論と実際 DV、虐待 【予習】DVや虐待などの暴力による支配について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
8) 犯罪理解のための理論と実際 窃盗、強盗、放火 【予習】強盗や放火犯罪について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
9) アクションと犯罪 【予習】薬物事犯や窃盗症などの嗜癖について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
10) 犯罪心理学に関する法律と制度 【予習】成人と少年の法制度について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
11) 犯罪加害者の処遇と支援 【予習】成人の犯罪者の処遇について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
12) 非行の処遇と支援 【予習】少年非行の処遇について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
13) 触法精神障害者の処遇と支援 【予習】医療観察法について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
14) 犯罪被害者の理解と支援(修復的司法) 【予習】犯罪被害者への支援について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
15) 家事事件への対応 【予習】家事事件や子どもの面会交流について考察してくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト 授業内レポート
授業外学習	
講義の終わりに、その講義のふりかえるため、講義のポイントをテーマとした小テストを行います。 小テストを中心に復習をくり返すことにより、知識の定着を図って下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 レジメを配布する。 【参考書】 わかりやすい犯罪心理学 文化書房博文社 犯罪心理学への招待 サイエンス社 公認心理師の基礎と実践 司法・犯罪心理学 遠見書房	

課題に対するフィードバック

備考

オフィスパワー；

科目名	産業・組織心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	榎本 俊哉	関連する資格	公認心理師 認定心理士	

授業概要

産業・組織心理学は、事業所における組織経営や産業活動の効率化や、人々が快適で健康に働くためにはどうすればよいかについての心理学領域である。そこでこの授業では、組織における人の行動や職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援について、これまでの心理学研究の成果をふまえて考える。

なお、この授業では産業組織領域における心理学の活用について受講生に調査・発表してもらい、これをもとに受講生全員で検討することとする。これにより、卒業研究はもちろん、卒業後の社会活動において活用できる「心理学リテラシー」の獲得を目標とする。

なお、この講義を担当する榎本俊哉は公認心理師・臨床心理士であり、産業・組織領域における実務経験を活かし、現場における実際問題についても検討する。

到達目標

ナンバリング(A4408ab)

- * 組織における人の行動について説明できる。
- * 職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援について考えることができる。
- * 職場における問題（労働者の健康や安全安心など）に心理学の知見を活用することができる。

成績評価方法

定期試験50%、発表内容30%、受講態度・演習20%で評価する。ただし、欠席が所定回数を超えた場合、および発表をしていない場合には評価の対象とはならない。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 産業・組織心理学について	
2) ストレスとメンタルヘルス セルフケア 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
3) ストレスとメンタルヘルス ラインケア1 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
4) ストレスとメンタルヘルス ラインケア2 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
5) ハラスメントについて 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
6) アサーションについて 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
7) リラクゼーションについて 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
8) 職場環境の改善について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
9) 長期休業後の復職支援について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
10) 労働者の人権について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
11) 産業・組織心理学の歴史 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
12) キャリア形成とワークライフバランス 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
13) 作業能率とヒューマンエラー 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
14) 商品イメージ・マーケティングと宣伝や広告・消費者心理 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
15) 組織における人の行動とリーダーシップ・仕事への動機付け 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
授業外学習	
<p>受講生は各自が興味あるテーマに沿って文献をまとめ、発表する。発表はパワーポイントなどを用いて他の受講生に分かりやすくすること。プレゼンテーションも評価の対象となる。なお、講義での発表および発表に必要なレポートの提出は必須とする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【参考書】 適宜プリントを配付する。</p>	<p>社会・集団・家族心理学 感情・人格心理学 健康・医療心理学</p>

課題に対するフィードバック

履修生のプレゼンテーションについては授業内でコメントする。
プレゼンテーション資料についてはA～Dの4段階で評価し、心理学的視点からコメントする。
なお、D評価となったプレゼンテーション資料については再提出を課す。

備考

科目名	心理実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	4年	通年(前期)
担当者名	小山 典子、西村 秀明、木元 卓也、榎本 俊哉	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

公認心理師法により定められている、次の3項目を中心に修得する。
 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。
 2) 多職種連携及び地域連携について。
 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。
 また、各自個別的な実習課題を設定し、心理臨床における機能や役割についてより深く学修する。
 次に、本学と実習契約をしている各実習機関(施設)への配属実習により、心理業務の実際について学修する。実習は3領域以上の機関で実施する。また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関(施設)を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。

実務経験

全員が公認心理師、または臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

ナンバリング (A4409ab)
 学修の課題設定した、1)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについての理解、2)多職種連携及び地域連携についての実際、及び 3)公認心理師としての職業倫理及び法的義務の修得。心理臨床に取り組む姿勢の学修。

成績評価方法

実習評価、研究レポート等で総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○				10
授業態度・授業参加度		○	○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		20
グループワーク			○	○	○		10
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>全実習期間及び時間は、10日間、80時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。</p> <p>医療保健分野：4日間（32時間） 福祉分野：4日間（32時間） 教育分野：2日間（16時間） 司法・犯罪分野：2日間（16時間）</p> <p>の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。</p> <p>1．公認心理師法により定められている、実習において学修すべき次の3項目について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。 2) 多職種連携及び地域連携について。 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。 <p>2．各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。</p> <p>3．次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の中で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。</p> <p>4．実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。</p> <p>5．また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。</p> <p>6．実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。</p> <p>【予習】医療機関、福祉施設等、実習先の治療、援助支援等、各機能について充分学習しておくこと。</p> <p>【復習】実習を振り返り自己吟味を深めるとともに、得た指導から心理臨床の実践における対応技能について理解の幅を拡げること。</p>	<p>実習</p>
授業外学習	
<p>臨床心理学はもちろん、精神医学、精神保健福祉、児童福祉等関連図書で学習を積んでおくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河合隼雄（2003）．臨床心理学ノート 金剛出版 ・馬場禮子 編（2003）．臨床心理学概説 放送大学教育振興会 	<p>心理学、精神医学等すべての科目</p>

課題に対するフィードバック

実習記録についての評価を実習指導者よりフィードバックを行う。
課題にコメントをつけて返す。

備考

科目名	心理実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	4年	通年(後期)
担当者名	小山 典子、西村 秀明、木元 卓也、榎本 俊哉	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

公認心理師法により定められている、次の3項目を中心に修得する。
 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。
 2) 多職種連携及び地域連携について。
 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。
 また、各自個別的な実習課題を設定し、心理臨床における機能や役割についてより深く学修する。
 次に、本学と実習契約をしている各実習機関(施設)への配属実習により、心理業務の実際について学修する。実習は3領域以上の機関で実施する。また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関(施設)を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。

実務経験

全員が公認心理師、または臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

ナンバリング (A4409ab)
 学修の課題設定した、1)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについての理解、2)多職種連携及び地域連携についての実際、及び 3)公認心理師としての職業倫理及び法的義務の修得。心理臨床に取り組む姿勢の学修。

成績評価方法

実習評価、研究レポート等で総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○				10
授業態度・授業参加度		○	○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		20
グループワーク			○	○	○		10
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>全実習期間及び時間は、10日間、80時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。</p> <p>医療保健分野：4日間（32時間） 福祉分野：4日間（32時間） 教育分野 2日間（16時間） 司法・犯罪分野：2日間（16時間）</p> <p>の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。</p> <p>実習に際しては、毎日「実習記録」を記載すること。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受けるものとする。</p> <p>1．公認心理師法により定められている、実習において学修すべき次の3項目について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。 2) 多職種連携及び地域連携について。 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。 <p>2．各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。</p> <p>3．次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の内で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。</p> <p>4．実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。</p> <p>5．また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。</p> <p>6．実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。</p> <p>【予習】医療機関、福祉施設等、実習先の治療、援助支援等、各機能について充分学習しておくこと。</p> <p>【復習】実習を振り返り自己吟味を深めるとともに、得た指導から心理臨床の実践における対応技能について理解の幅を広げること。</p>	<p>実習</p>
授業外学習	
<p>臨床心理学はもちろん、精神医学、精神保健福祉、児童福祉等関連図書で学習を積んでおくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。</p> <p>参考書 ・河合隼雄（2003）．臨床心理学ノート 金剛出版 ・馬場禮子 編（2003）．臨床心理学概説 放送大学教育振興会</p>	<p>心理学、精神医学等すべての科目</p>

課題に対するフィードバック

実習記録についての評価を実習指導者よりフィードバックを行う。
課題にコメントをつけて返す。

備考

科目名	卒業研究						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	4	4年	通年(前期)			
担当者名	内海 俊祐、蔵本 満敦、高田 晃、 小山 典子、榎本 俊哉、三島 瑞穂、 三輪 直之、白石 義孝、梶本 知子、 大元 卓也		関連する資格				
授業概要 大学4年間の総まとめとして各モデル別に学んだ専門分野の中から、自分が本当にやりたいものは何かを見つけ、テーマを決めて取り組む。2年～3年次で習得した「総合演習」の経験を生かすことが望ましい。担当教員のもとで資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。							
到達目標 A4301b ・自分が本当にやりたいテーマを見つけ、実行可能な研究計画書を作成できる。 ・研究目的に沿った資料収集ができる。 ・研究計画、研究の進捗状況、途中経過等をレジュメにまとめゼミ内で発表することができる。 ・自らの発表や他のゼミ生の発表を基にディスカッションができる。 ・他のゼミ生の研究に対しても相手を配慮した建設的な意見が言える。 ・担当教員をはじめゼミ生からの意見を自分の研究に役立てることができる。 ・最終的に自分の納得のいく論文が作成できる。			成績評価方法 論文作成に取り組む姿勢、作成した論文の内容を基に総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							70
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
2) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
3) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
4) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
5) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
6) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
7) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
8) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
9) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
10) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
11) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
12) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
13) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
14) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
15) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
授業外学習		
教員ごとに課題提示		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
テキストは使用しない。 参考書は、担当教員が個別的に教示する。	取り上げるテーマによって異なる。	

課題に対するフィードバック

各教員が行う

備考

科目名	卒業研究						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	4	4年	通年(後期)			
担当者名	内海 俊祐、蔵本 満敦、高田 晃、 小山 典子、榎本 俊哉、三島 瑞穂、 三輪 直之、白石 義孝、梶本 知子、 大元 卓也		関連する資格				
授業概要 大学4年間の総まとめとして各モデル別に学んだ専門分野の中から、自分が本当にやりたいものは何かを見つけ、テーマを決めて取り組む。2年～3年次で習得した「総合演習」の経験を生かすことが望ましい。担当教員のもとで資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。							
到達目標 A4301b ・自分が本当にやりたいテーマを見つけ、実行可能な研究計画書を作成できる。 ・研究目的に沿った資料収集ができる。 ・研究計画、研究の進捗状況、途中経過等をレジュメにまとめゼミ内で発表することができる。 ・自らの発表や他のゼミ生の発表を基にディスカッションができる。 ・他のゼミ生の研究に対しても相手を配慮した建設的な意見が言える。 ・担当教員をはじめゼミ生からの意見を自分の研究に役立てることができる。 ・最終的に自分の納得のいく論文が作成できる。			成績評価方法 論文作成に取り組む姿勢、作成した論文の内容を基に総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							70
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
2) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
3) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
4) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
5) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
6) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
7) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
8) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
9) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
10) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
11) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
12) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション
13) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション 卒論発表会に向けての準備
14) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション 卒論発表会に向けての準備
15) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）		ゼミ内での発表、ディスカッション 卒論発表会に向けての準備
授業外学習		
教員ごとに課題提示		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキストは使用しない。 参考書は、担当教員が個別的に教示する。		取り上げるテーマによって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う

備考